事前準備の重要チェックポイント

いざ、というときの連絡先		
	□親族　□友人　□会社 □その他（　　）	本人に会わせたい人の氏名・間柄・住所等の連絡先を事前にまとめておく。
葬儀の種類		
	□火葬のみ　□家族葬(近親者のみ) □一般的な葬儀(白木の祭壇で) □一般的な葬儀(お花の祭壇で) □社葬	最初は何となく漠然とでよいのです。本人が何を希望しているのか考えてみます。
お葬式の人数(親族や参列者等)		
	名	人数により場所の検討をつける事ができる。
葬儀の形式(宗教)		
	□仏式　□神式　□キリスト式 □無宗教　□他（　　）	後々のご親族とのトラブルにならないように事前に理解をもとめておきます。
ご遺体の安置先		
	□自宅 □斎場や葬儀社など他の場所	集合住宅等の場合、エレベーターに入らない等、ご自宅に安置することが物理的に不可能な場合もあります。
お葬式を行う場所		
	□自宅　□斎場　□集会場 □寺院　□その他式場	お葬式の人数や、お葬式の形式を考慮して考えましょう。
お葬式をお願いする葬儀社へ連絡		
	□決まっている (葬儀社名　　) (電話番号　　) □決まっていない	互助会や共済などを利用する場合は、実際の祭壇の写真、料理の写真などみせてもらい希望を伝え実際にはいくらかかるのかあらかじめ見積りをもらっておくといいでしょう。
宗教者へ連絡		
	(宗教者名　　) (電話番号　　)	お付合いのある僧侶や牧師がいらっしゃる場合は、葬儀の日程を決定する際の都合も考慮する必要がでてくることもあります。
お葬式にかける予算(自分の考え)		
	およそ　　万円位	葬儀費用は本当に分かりづらいものです。参列人の人数や祭壇の種類で驚くほど変わってきます。
どうしたらよいかわからなくなってしまう品がないかどうか		
	□預金通帳 □コレクション □アルバム □生命保険証 □骨董品 □その他	印鑑や通帳、貸金庫の鍵や暗証番号などあらかじめ本人にに遺言しておいてもらうと安心です。また、趣味の書籍や骨董品、アルバムなどどう処分したらよいのか判断しにくいものです。それらも事前に遺言しておいてもらうとよいでしょう。

事前準備の重要チェックポイント

万が一の際、葬儀社から訪訪ねられること		
	□故人の生年月日・年齢 □故人の住所・本籍 □本籍 □家紋 □宗旨・宗派 □喪主(代表者) □世話役	万が一の際には、多くのことを葬儀社からたずねられ、準備しなければなりません。そのため、ゆっくりお別れする間もなく気がつけばがつけば葬儀が終っていたということが多いです。事前にまとめておくことで、それらを少しでもしでも回避したいものです。

連絡先一覧表

名前	関係	住所	電話番号(携帯)